

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度第1回相模原市新型インフルエンザ等医療対策会議		
事務局 (担当課)		健康福祉局保健所地域保健課 電話042-769-9241(直通)		
開催日時		令和元年11月19日(火)19時30分~20時40分		
開催場所		総合保健医療センター A館5階 相模原市医師会会議室		
出席者	委員	10人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	11人(保健所長 他10人)		
公開の可否		可 不可 一部不可	傍聴者数	-
公開不可・一部不可の場合は、その理由		相模原市審議会等公開基準第2条を踏まえ、相模原市新型インフルエンザ等医療対策会議規則第6条に基づき非公開とするもの。		
会議次第		1 市あいさつ 2 議題 (1) 新型インフルエンザ対応訓練について (2) 新型インフルエンザ等対策に係る備蓄のあり方について (3) 新型インフルエンザ等対策に係る広報及び啓発について (4) 2020 オリパラ東京大会に向けたサーベイランス機能の強化等について 3 その他		

審 議 経 過

冒頭に出席委員の人数が定足数に達していることを確認し、その後、議題について審議した。

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

2 議題

(1) 新型インフルエンザ対応訓練について

資料1及び動画により、昨年度に実施した新型インフルエンザ対応訓練の実施について報告するとともに、今年度実施する新型インフルエンザ対応訓練について説明した。

【主な意見等】

- 昨年の訓練において、防護服を装着して点滴を行う流れを確認したが、手袋が厚く手先の感覚が全くない状況であり、患者の腕を触っても血管がわからなかったの
で、実際に点滴を行うのは非常に困難であると感じた。

また、防護服を装着しているため、患者やスタッフと意思疎通を図るのにかなり大きな声を出さねばならず大変であった。

医療従事者が防護服を装備して訓練しているが、防護服を装備して対応するケースについて伺いたい。例えば、一般的なクリニックでは防護服の装着を要するのか。

訓練は、海外発生期又は県・市内未発生期の段階における医療体制の訓練である。この段階においては、市内で新型インフルエンザの疑いがある患者は、帰国者・接触者外来を受診し、検査の検体を採取し検査を保健所へ依頼するとともに、感染症指定医療機関等へ入院を要請することになるため、医療従事者は防護服等を装備している。

一方、一般のクリニック等医療機関には新型インフルエンザの疑いがある患者は受診しない想定となっているため、防護服等の装備は不要と考えている。

- 今年度の訓練において、昨年度と同様の手袋を使用するのか。

薄手タイプの手袋に変更する予定である。

- 使用する手袋に、国から示されている基準はあるのか。

国が示している手引き等に基準は示されていない。一般的に医療機関で使用されている手袋を使用する予定であるが、何かご意見等があればお願いしたい。

- 防護服等については、これまでの訓練の課題を踏まえ、機能性や安全性がより優れているものについて検討をしたほうがいいのではないかと。

他市の状況を参考に、様々なメーカーの製品を検討していきたいと考えている。

- 内閣府が実施する情報伝達訓練の実施日について、病院協会を通じて事前に連絡があったが、当該訓練の延期については、事前に情報提供がなされたのか確認したい。

当該訓練の実施について、各病院に対し連絡されていることを承知していなかったため、訓練延期の情報提供ができていなかった。今後は、適切な情報提供を行っていききたい。

- 訓練の実施等については、国を通じて様々な情報発信があると思うが、市から適切に連絡をもらえるようお願いしたい。

(2) 新型インフルエンザ等対策に係る備蓄のあり方について

資料2により、本市や他自治体の備蓄状況、課題や検討事項について説明した。

【主な意見等】

備蓄薬剤については、タミフル単独ではなく、リレンザ等複数の種類の抗インフルエンザ薬を備蓄したほうがいい。タミフルは耐性の問題があるが、リレンザは現時点において耐性がないとされており、かつ、長期の保管が可能である。

防護具の袖付きガウンをこれまで備蓄していない理由は何か。フェーズに応じて、装備を切り替えるタイミングがあると思われるので、操作性を考えると袖付きガウンの備蓄はあったほうがいい。

防護具のつなぎで対応可能と考え、備蓄してこなかったところである。つなぎの防護具は、装備した際の操作性に課題があるとのことであるので、今後、袖付きガウンの備蓄について検討を行う。

(3) 新型インフルエンザ等対策に係る広報及び啓発について

資料3により、内閣府が実施した世論調査や国、九都県市における普及啓発について説明した。

世論調査はどのような方法で行われたのか。

日本国籍の18歳以上の男女3,000人を対象に、調査員による個別面接調査方式により行われた。

調査結果をみると、広報を行っていくべきである。

不安に感じている市民が多いので、正しい知識を提供することは大事である。

(4) 2020 オリパラ東京大会に向けたサーベイランス機能の強化等について

資料4により、自治体間の情報共有、疑似症定点の見直し、ラグビーワールドカップ2019日本大会における取組について説明した。

【主な意見等】

- 2020 オリパラ東京大会に向けて、相模原市として市民や医療機関等に対する情報提供を検討しているのか。

市独自の情報提供はないが、疑似症定点の見直しについては、2020 オリパラ東京大会開催前に情報提供するとともに、定点の候補となる病院に対して説明を行っ

ているところである。

- 来年のマスクギャザリングの時期に向けては、各医療機関がデータを確認することになるが、調査対象以外の感染症について、どのようにしてデータを確認すればいいか。

対象以外の感染症については、国や県の動向を注視し、市としても医療機関と情報連携を図っていきたい。

3 その他

- これまでの本対策会議においては、感染の水際対策について主に議論が行われてきており、マニュアルの作成や訓練の実施等の成果を上げているところである。

一方、県・市内感染期つまり感染が始まった段階においては、一般の医療機関やメディカルセンターが対応の中心となってくるが、その具体的な行動計画が示されていないのが課題である。

例えば、発熱者を一般の医療機関やメディカルセンターがどう扱っていけばいいのか、医療スタッフ等が特定接種を受けることになっているが、特定接種がうまくいかなかった場合におけるスタッフの具体的な防護方法等についても課題としてとらえ、今後議論を深める必要がある。

【事務局より】

会議録については、会長に内容を一任し、相模原市審議会等公開基準に基づき公開する。

実際に感染が広がった時の対応や防護服についての意見について、平成30年に作成したマニュアルの内容を適宜見直していくこととなっているので、ご意見をもとに検討を行っていく。

2020 オリパラ東京大会に向けた感染症対策について、昨年の本対策会議で紹介したとおり、相模原市の感染症リスク対策評価書を作成したところであり、神奈川県と一緒に取り組むこととなっており、ご意見をもとに議論を深めていきたい。

以 上

相模原市新型インフルエンザ等医療対策会議 委員名簿

氏 名	選 出 団 体 等	出 欠
原 田 工	相模原市医師会 副会長	出席
武 田 啓	北里大学病院 副院長（診療担当）	出席
油 井 直史	相模原市医師会 理事	出席
清 水 直史	相模原市病院協会 理事	出席
山 本 倫子	相模原協同病院 呼吸器病センター長	出席
関 谷 潔史	国立病院機構相模原病院 アレルギー科医長	欠席
岩 佐 尚子	東芝林間病院 循環器内科医長	出席
中 川 潤一	相模原赤十字病院 副院長	出席
今 井 純好	地域医療機能推進機構相模野病院 小児成育医療センター主任部長	欠席
大 嶺 秀樹	相模原市歯科医師会 専務理事	出席
山 下 耕司	相模原市薬剤師会 副会長	出席
高 山 陽子	（学識経験者） 北里大学病院 危機管理部感染管理室長	出席